

—村史こぼれ話 1—

出羽三山塔

大字弥彦字矢楯、旧北国街道の弥彦参道杉並木を過ぎ、弥彦神領の境界を示す「注連縄」の外にある出羽三山を勧請した石塔。高さは約 260 cmと大きく、銘文は「奉勧請 湯殿山 月山 羽黒山」と刻まれている。

出羽三山は、山形県の月山を主峰とする羽黒山、湯殿山を総称していわれ、東北修験道場として古来から有名な霊場であった。江戸時代には特に修験者自らの修行道場であった山を信者に参拝させる風潮が盛んになった。修験道は日本固有の山岳信仰に仏教が習合したもので、特に天台宗や真言宗の密教派と深い関係がある。出羽三山の場合、信仰登山は羽黒山から湯殿山へと庶民の信仰が集まり、次第に湯殿山が三山の中心となった。修験者たちは五穀豊穰、家内安全、無病息災などの現世利益を説いて講中を組織し、先達となって道案内した。

弥彦村の三山講は、大正時代、宝光院を中心に組織された。住職によると、「主として井田、弥彦、上泉で組織され、3年で回して三山詣でを行っていたが、講員が高齢化したこともあって、10年ほど前から休講している」とのことであった。

三山関係の石塔は、ほかに宝光院の境内、婆々スギへの参道にも大きな湯殿山碑が建てられている。

村内にはほかにもさまざまな石仏があります。探してみてもはいかがでしょうか。

